

浅川副編集長の出版記念パーティーに招待されて行って来ました。ヤバいっす……。以前このコラムで悪口を言ってしまった木内博一さんと坂上隆さんもいらっしやいました。腹を括って真っ先にお詫びしに行きますと、お2人も笑顔で、気になさらず快くお許し下さいました。よせばいいのにイイ気になって、木内さんには「僕が指摘をしたらコラムの内容が急にレベルアップしたじゃないですか！野菜を売るために魚から始めて信用を得るなんてさすがプロフェッショナル経営者ですね！出し惜しみしてたんじゃありませんか？」と、坂上さんには「A・1グランプリでは大敗しましたが、どっちが優秀な農業経営者か、3年後の売上高で勝負しましょう！」と言わなくて良い事を言ってしまったのですが、苦笑いで、お許しただけなのか相手にされなかったのか、その場では怒られませんでした。数々の失礼をお許しください。悪気はないんです。僕の担当である農業界のドン・キホーテを演じているだけなんです。

本題に入ります。3月29日に入社式があり、14名の新卒新入社員が国立ファームグループに入社しました。人件費1人年間300万円で計算すると新卒だけで年間4200万円円の粗利を上げなければ赤字になるというざっくりとした数字になります。今の国立ファームにとっては大変な大金ですが、投資としては確実に利益の出る歩の良い投資だと考えています。考えてはいますが、2週間の新人研修で2名が辞めて、配属2日目で1名が辞めて、早くも11名になってしまったんです。毎年、入社式の挨拶で「3年間は辞めるな！どんなに出来が悪くても3年間は面倒をみる！入社1年目は富士の樹海の中を歩いているんだよ！3年経てば3合目近くまで登れる！そうすれば下界も見下ろせるし、山頂も見えてくる。その時点でこの山が気に入らなければ下山したら良い！それまでの努力は足腰を鍛えることになり他の山を登るときにも無駄にはならない！」と力説しているのに……。

僕は24歳のテレビ制作時代からアルバイトの採用・教育を担当してきましたので、過去に500〜600人の人材を自分の判断で採用しています。その経験から今の国立ファームの成熟度・知名度・待遇・職種・上司や先輩のレベルと新卒新入社員の就職に対する価値観を想定すると、3年後には3割前後が残っていると推測できます。毎年全員が残ってこれるのではないかと期待しても残念ながらこれが僕の実力のようです。ということ、14人の採用で3年後には4人が残っているという計算になります。この4人が会社に利益を与えてくれる人財になる訳ですが、さらに10年後を考えると経営に参画してくれる幹部に育つのは良くて1人でしょう。創業期の会社としては、新卒新入社員を採用する第一義は未来の幹部を育てるためです。会社経営者の立場からは、時間的損失や信用的損失を考慮すると、辞める社員には出来るだけ早く辞めて頂いた方が損失は少なくなるのですが、人の情はそう簡単に割り切れるものではないので厄介です。

国立ファーム株式会社

高橋がなり

アグリの猫

~早く「虎」に変わるんだ！~

第38回

新卒採用は定植というよりは、新種交配に近い仕事です！